

入選

山崎 実咲 (やまざき みさき) 檜原中 1年生

作品名：自分らしく、強く生きる

図 書：君の臍臓をたべたい

『君の臍臓をたべたい』

私は、この本を読んで「生きること」について深く考えさせられました。

この本は、山内桜良が書いた共病文庫という本をクラスメイトの志賀春樹が拾うことから始まります。山内桜良はある秘密を抱えています。それは、臍臓の病気でもうすぐ死んでしまう、という秘密でした。山内桜良は病気のことを誰にも言えず、共病文庫に病気のことなどを日記のようにつけていました。それを、志賀春樹に読まれてしまいます。そこから二人のきょうりが少しずつ縮まっていきます。そんな中でも山内桜良が、自分らしく強く生きていく姿を描いた作品だなと私は思いました。山内桜良の生き方にひかれて、私はこの本を選びました。

彼女はそんな秘密がある中で、まわりの人に希望をあたえ、自分らしく生きていきます。山内桜良は、暗く、人と関わろうとしなかった志賀春樹を変えました。本の中にも、

「変えられたんだ。間違いなく変えられた。」

という文があります。山内桜良は人を変えてしまう不思議な力があります。私もその中の一人です。この本を読んで私の中の何かが変わりました。彼女の生き方は私にたくさんのことを教えてくれました。この物語の中で山内桜良が自分にとって生きることとは何かを話している文があります。

「きっと誰かと心を通わせること。」

私はこの言葉を読んで、すごく新鮮な気持ちになりました。私は、自分一人だと「生きている」という実感がわからないんだろうなと思いました。もし、この世界に私だけが住んでいたら「生きている」という感じはしないと思います。理由は、私はここにいるという証明がないからです。私がここにいると思えるのは、友達が声をかけてくれるからです。私に触れたり、喧嘩をしたり、一緒に泣いたり笑ったりしてくれる友達や家族がいるからだとは思っています。私と一緒に生きてくれている人たちに感謝したいです。たくさんの人に囲まれて生きている私はとても幸せ者だと思いました。

この本の中で私が一番心に残った文は、

「違うよ。偶然じゃない。私達は皆、自分で選んでここに来たの。君と私がクラスが一緒だったのも、あの日病院にいたのも、偶然じゃない。運命なんかでもない。君が今までしてきた選択と、私が今までしてきた選択が、

私達を会わせたの。私達は、自分の意思で出会ったんだよ。」という、山内桜良が言った言葉です。私は、自分の意思で、今ここで生きているんだなと思いました。一つでもちがう選択をしていたら会うことができなかつた人もたくさんいると思います。だけど私は自分の意思で、これまでの出会いや出来事などを決めてきました。「誰か」ではなく「私が」選択しました。私はこれまでの出会いに心から感謝したいです。また、これからの会う人にも感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいです。

山内桜良は最後、亡くなってしまいます。脾臓の病気ではなく、通り魔事件に巻き込まれてしまったからです。でも、彼女は最後まで自分らしく、強く生きぬいたと私は思います。山内桜良はとても明るく、天真爛漫で何より自分らしさを忘れない、とても素敵な人だと思います。自分が病気で辛い時も、決して弱音を吐くことはありませんでした。私も自分らしく、強く生きたいです。私にとって山内桜良は憧れです。

私は今ここに生きています。私のまわりで支えてくれる人と一緒に生きています。そんなあたり前のようにあたり前でないこの毎日を生きていけることに感謝したいと思います。私は私らしく、一瞬一瞬を大切に生きていきます。